

2019年度日本魚類学会年会発表要旨

水槽飼育下におけるメコンオオナマズ *Pangasianodon gigas* の摂餌周期と耳石輪紋形成

Otolith ring crest formation and feeding rhythm of *Pangasianodon gigas* in an aquarium

○池谷 幸樹 (アクア・トトぎふ)・表 健一郎 (マリノリサーチ)

○Koki IKEYA and Kenichiro OMOTE

メコンオオナマズ *Pangasianodon gigas* は東南アジアを流れるメコン川水系にのみ生息し、絶滅の危機に瀕している世界最大のナマズ目魚類である。世界淡水魚園水族館では、タイ国のアユタヤ内水面水産試験場から搬入したメコンオオナマズ成魚 6 個体を 2004 年 5 月より水槽で飼育していたが、そのうち 1 個体 (供試個体) が 2018 年 3 月 3 日に死亡したため、耳石を取り出しアクリル系の樹脂に包埋し、短軸方向へ切断・研磨しスライド標本作製した。供試個体に関し、2004 年 6 月 18 日から死亡した 2018 年 3 月 3 日までにわたる日毎の摂餌量記録と耳石に形成された輪紋とを照合し考察した。飼育条件は一年を通じて照明点灯時間は 12 時間、水温は平均 28.2°C を維持し、供試個体にはコイ用配合飼料を練り餌にして毎日 16 時に給餌した。また供試個体は生時、摂餌期と長期絶食期を交互に繰り返す摂餌周期が確認されていることから、耳石の輪紋は供試個体の摂餌期に不透明帯が形成され、絶食期に透明帯が形成されることにより、縞状に形成されることが示唆された。詳細に観察していくと摂餌期間・絶食期間のそれぞれの長さで耳石に形成された不透明帯・透明帯の間隔は対応し、さらに供試個体の摂餌周期は一年周期に近い周期性を示したことから年輪のように輪紋が形成されたと考えられた。